

プロジェクトってなんだろう？

「あなたの価値観とか、生きがいとか、会社経営の意味ってなんですか？」  
最近、こんな質問をいろいろな経営者に聴いています。返事が返ってくることはなくそして絶望的な返事さえ頂きます。このままでいいのでしょうか？

現在、自分は38歳、60歳の経営者であったり、二代目の45歳の経営者で、自分と価値観の合わない部下が沢山いらっしやると悩みを言う経営者たちは、自分の価値観を尋ねられて答えることができないのは普通です。自分が解らないようなものを部下に伝えることがはたして、できるのでしょうか？そして経営改革、業績UPなど可能なのでしょうか？

例え業績が挙げられてもそれは、外的な偶然な幸運では無いのかと思います。それは単純にHOW TOを教えただけではないですか？経営者という人間になりそれを一生懸けていいものにしなければいけない人間は、急成長より持続的かつ継続的な成長を望みそして人間的にも、社会的にも成長しなければならぬと思います。そして仕事と作業を区別なくただ作業に追われる経営者も多く、仕事を教えるのにHOW TOを教えることだけをしている経営者は経営者といえるのでしょうか？

理念、思い以上、想像、情熱以上の会社にはなるわけではなく「社長」といわれる方は、考えを何所に置くかそして置いているところを「魅せる」そして分かり易く「見せる」のが、仕事だ。というのが勉強できたことが一番の財産です。

コンサルタントという、キナ臭い、敬遠するべく職業の「堀之内」という名のオジサンが目の前に現われたのは2年ほど前だった。「コンサルタント」という職業に対して非常に深い猜疑心を持ち、渡された名刺にさえ「インチキくさい」と不信感を強烈に持った。

最初に、組織・人材分析をして頂いてまず、度肝を抜かれた。経営者は普段、急激な変化を恐れて、疑問に思っていたりすることをなかなか口に出したり行動に移せないものだが、改善すべき点と考えなおさなければいけない事項がそこには具体的、かつ論理的に記されてあった。そこで何も具体的に感じてでも変えられない自分に反省をした。

負けた、と思い素直に従い教を請うことに決めた瞬間であり。来たことがない、見たことがない店の問題を把握できるそのコンサルタントをふざけて、「遠メガネ先生」と表現してみた。

プロジェクト、というものを立ち上げて、その中で部下の人間成長を図るものをするのですが、大体意味が分からない・・・「プロジェクト」なんていうのが、こっ恥ずかしいし、なんせ生まれてこの方、会議なんてものはしたことが無く、人前で自分の意見を述べるなんてことが無かった人たちに、自分の意見を言えってお願いするもんだから何にも意見が出ないは、世間の動きは俺達関係無い、位に思っている人達が社員に存在することが十分

に理解できたり、危機感などというものには縁遠いというのが十分にわかるようになります。最近は、「不景気が理解できない社員達を育てる。」というのも目標の一つです。心理的連続攻撃を受け自分は徐々に何が大事なのかに目覚めていきます。

いかに、自分は自分に、人に甘く何もやっていなかったのを思い知ることになり成功の絵が人の心という目に見えないものがみえてくる日が訪れることになります。

そして、社員と共に目指すべき社員像というのを創っていくことにより段々自分の価値観を表に出し形のないものが形になっていきます。

好きな経営者誰ですか？の問いに答えられない経営者の方は多いと思います。

僕は、誰も好きでもないですが稲森さんの「自然性の人」というのが好きです。

自分自身に自問自答を繰り返し、価値観を表に出せるように成った今思うことは自分以上、想い以上、行動基準以上、には人は、自分は育た無い。

38歳で、このような機会を持つことができたのを幸いに思います。

このまま、機会に恵まれずに自分の価値観にも気づかずに過ごして60歳を過ぎても何も気づかずに老人になっていたら非常に不幸だったと考えます。

まだ、僕には30年ぐらい働ける時間があり20年は戦う気持ちとモチベーションを操作しなければいけないのですがこの機会にモチベーションをコントロールする何か？も気づくことが可能です。

出来上がるのは、言葉の書かれた紙切れです。しかしそれを創造することは自分では社内では出来なかった。コンサルタントという外部の力を借り壁を壊す戦いをして良かったと思います。